

令和7年度 学び創造研究会 伊那市立伊那中学校（要項）

1 期 日 令和7年 11月7日（金）

2 場 所 伊那市立伊那中学校

3 日 程

受 付 12:30～12:50（職員玄関）

開 会 式 13:00～13:10（会議室）

① 主催者挨拶

② 学校長挨拶

研究発表 13:10～13:25（会議室）

マイチャレ発表会 13:40～14:10（各会場）

公開授業 14:25～15:15

授業者と語る会 15:15～15:30

授 業 教 科	美術	理科	国語
テ ー マ	探究的な教科の学び	協働	UD化
授 業 学 級	1年1組	1年2組	2年1組
授 業 者	小山 美香子 教諭	渡邊 秀吏 教諭	宮原 里都子 教諭
授 業 会 場	第1美術室	第1理科室	2年1組教室
授業者と語る会会場	家庭科室	第3理科室	2年2組教室

全体会 15:35～16:20（会議室）

- ① 共同研究者の先生の紹介（校長）
- ② マイチャレ発表の感想および質問コーナー
- ③ 臼井先生と伊那中職員のトークセッション
- ④ 臼井先生よりおまとめのお話
- ⑤ 会場校校長 挨拶

解散 16:30

4 持ち物

- ・上履き、飲み物等、各自必要なもの

5 その他

- ・駐車場は、別紙案内をご確認ください。
- ・本件について、ご不明な点等がございましたら、担当までご連絡ください。

伊那市立伊那中学校
（教頭）熊谷 （担当）田中
TEL 0265-72-6168
e-mail inaty@ina-ngn.ed.jp

伊那中学校駐車場案内（春日公園駐車場）

伊那市立伊那中学校

1 駐車場について

- (1) 春日公園駐車場（下図の㊟）をご利用いただけます。本校へは徒歩5分程度です。
- (2) 職員玄関横への駐車は、来賓・来客等用ですので、ご遠慮ください。
- (3) 会場周辺の道路は狭いため、路上駐車等はおやめください。
- (4) 隣接する**竜西保育園**の駐車場は絶対に使用しないでください。

2 学校周边图



学校へは、職員玄関よりお入りください。

3 周边地图



1 子どもたちはどう学ぶのか

伊那中学校の生徒達は小学校までに学級総合や自然体験学習を通して、「やってみたい」という探究心を働かせた経験があります。その経験を中学校での探究につなげながら、教師の仕組んだ手立ての中で生徒がどのように学ぶのかを把握することを大切に、研究テーマを「子どもたちはどう学ぶのか」としています。昨年度までの研究では、「探究的な教科の学び」と「探究活動『伊那中マイチャレンジ』」には往還関係があるのではないかという仮説をもち、両者のつながりを意識した授業づくりを進めてきました。

2 昨年度までの研究から

(1) タイプ5の授業を目指して

授業を考える際には、「課題・目的」「内容・対象」「方法・手順」という3つの指標を設定し、それらを教師が提示するのか、生徒が自ら選択・決定するのかという観点から授業をタイプ別に分類しました。

	タイプ1	タイプ2	タイプ3	タイプ4	タイプ5	タイプ6	タイプ7	タイプ8
課題・目的	生徒が選択する	生徒が選択する	生徒が選択する	生徒が選択する	教師が提示する	教師が提示する	教師が提示する	教師が提示する
内容・対象	生徒が選択する	生徒が選択する	教師が提示する	教師が提示する	生徒が選択する	生徒が選択する	教師が提示する	教師が提示する
方法・手順	生徒が選択する	教師が提示する	生徒が選択する	教師が提示する	生徒が選択する	教師が提示する	生徒が選択する	教師が提示する

表1. タイプ分類図

PBL (Project Based Learning) での授業や本校の探究活動『伊那中マイチャレンジ』など、生徒が「課題・目的」「内容・対象」「方法・手順」の全てを選択・決定しているものがタイプ1に当てはまります。実際に日々の授業について考えると、一般の中学校である本校では高校進学に向けた入試やテストがあり、決められた時間で学習指導要領の内容を確実に扱わなくてはなりません。授業内容を方向付けるために、「課題・目的」は生徒に委ねにくく、単元・題材の目標を達成できるよう教師が適切に諸条件を整理し、提示することが大切だと考えます。そこで、授業の方向付けとなる「課題・目的」については教師が提示し、「内容・対象」や「方法・手順」を生徒が選択したり、試行錯誤しながら決定したりする授業（タイプ5）を、探究的な教科の学びとして目指してきました。

(2) 自分の学びを更新する

生徒が選択・決定する授業を実践する中で、様々な生徒の学びの姿がありました。

① 国語の授業での実践

1年生 題材： 『1の1のトリセツ～食べ物編～』（教科書『言葉を集めよう』）
授業場面：「集めた言葉を使って好きを表現する」

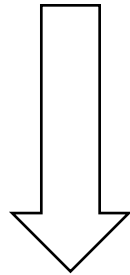
課題・目的： クラスの仲間に自分のことを伝える『1の1のトリセツ』を作るため、100字で自分の好きな食べ物について伝える文章を書く。 教師が提示する

内容・対象： 自分の好きな食べ物を選択し、魅力がより仲間に伝わる表現を考える。 生徒が選択する

方法・手順： マッピングや書籍、タブレットでの検索、仲間との交流を通して好きな食べ物の魅力が詳しく伝えられそうな言葉を集める。 生徒が選択する

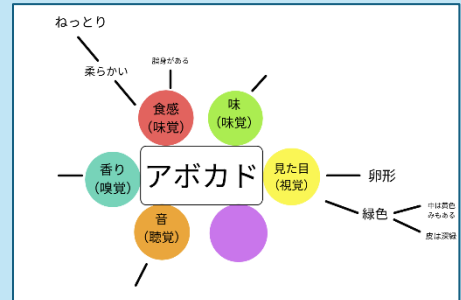
〈前時の A 生のトリセツ〉

味が好きなのと、調理も出来るし単体でも食べられて色々な食べ方があるから。



〈本時の A 生のトリセツ〉

女性に人気で、見た目は丸く卵形で色は全体的に緑色です。中は黄色みもあり、外側は深緑。食感は柔らかく、様々な味付けを楽しむことができます。酸味のあるドレッシングをかけたりしても美味しいです。

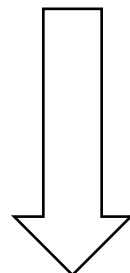


マッピングを作成して考えることを選択

A 生はマッピングを作成することを通して、自分の文章に今まで書いていなかった見た目についての情報を付け加え、食べ方についても具体的な方法を追加しました。より具体的な内容へと更新していく姿が見られました。

〈自分のトリセツの変化から振り返る B 生〉

そのものにしかない特徴をオノマトペや五感を用いると、とてもわかりやすく伝えることができる。



〈新しい表現の仕方を知る B 生〉

あえてデメリットを書いてみたりして、デメリットもそれにしかないものだったりするし、そういった工夫もおもしろいと思った。

集めた言葉を使って自分の好きな食べ物の紹介文を 100 字程度で書こう。

炭火焼きを使って風味を出して、バターをそのままコーンに乗せることで味を染み込ませている。外はカリッと中はジューツとしていてご飯にも合い、つまみとしても優秀。カロリーは高いが食べる価値あり。ちなみに自分は食いすぎて 1.3kg 太った。

C 生の作った文章を読む

B 生は自分の文章を書いた後に、ICT を介して C 生の作った文章を読む中で新しい表現の仕方に気付いていく様子が見られました。自ら選択して学ぶ中で、自分の学びが更新されている様子が見て取れました。

② 技術の授業での実践

1 年生 題材： 基本的な技能を身につけよう！！～小物入れの製作～

課題・目的： 材料と加工の技術の基本的な技能習得のための練習題材として、小物入れの設計及び製作を行う。

内容・対象： 小物入れの形状と使う部品の大きさや数を決めだす。

方法・手順： 実物部品見本や3D設計アプリを使いながら、個人または仲間と構想を練り、製作していく。

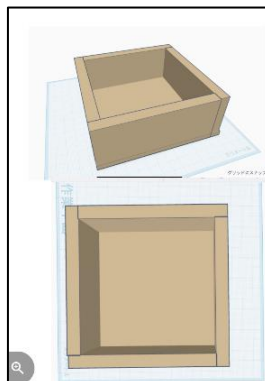
教師が提示する

生徒が選択する

生徒が選択する

〈D生の願い〉

見た目や実用性を意識して小物入れを考えたい



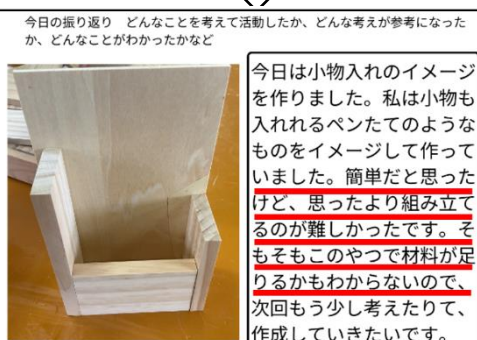
私は小物置きを正方形にしようと思い、設計図を作り始めました。実物と同じサイズの設計図をつくる所が難しくて苦戦しました。友達と一緒にサイズの計算をしたり、設計図を考えたり、、、協力して設計図をつくることができました。次回からは実物の木にどこで切断するか線(印)を入れたり切断する作業に入るので手を切ったりとか怪我をしないように気をつけて作業をしていきたいです。



3D 設計アプリを使って構想すること、友達といっしょに考えることを選択

〈E生の願い〉

ペン立てのような小物入れを設計したい



今日の振り返り どんなことを考えて活動したか、どんな考えが参考になったか、どんなことがわかったかなど

今日は小物入れのイメージを作りました。私は小物も入れれるペン立てのようなものをイメージして作っていました。簡単だと思ったけど、思ったより組み立てるのが難しかったです。そもそもこのやつで材料が足りるかもわからないので、次回もう少し考えたりて、作成していきたいです。



実物部品見本を使って構想することを選択

3D設計アプリと実物部品見本のどちらを使っても良いようにアプリと実物部品コーナーを用意しました。アプリを使って自分の考えたサイズで設計することができたD生、実物を使うことでこの先の行程まで考えたり、材料の過不足まで考えたりできたE生の姿がありました。

どちらの授業も生徒が自分の好きや興味、～が欲しい、～を作りたいといった思いから「内容・対象」を選択・決定できるように仕組みられていました。また、「方法・手順」が選択・決定できる環境が作られていて、一人で取り組むことも、必要に応じて友と相談し友の学びの様子を見ることもできるといった個別と協働も選択できる授業になっていました。そのため生徒が自分の学び方を選択・決定し、自分の学びが補足されたり、新しい気づきがあったり、完成させることができたりするといった自分の学びを更新する姿が見られました。

こうした様子から、今年度の目指す生徒の姿を「自分の学びを選択・決定し、自分の学びを更新する姿」としました。

3 協働とUD化によって学びを更新する

図1は、生徒が「自分の学びを更新する」過程を示しています。

生徒は「やってみたい」「好き」「おもしろい」「知りたい」「確かめたい」といった思いをもとに、自分の学びを進めていきます。3つの指標「課題・目的」「内容・対象」「方法・手順」についても、生徒自身の思いに応じて選択・決定されていきます。

「いつ」「誰と」「何を」学ぶのかを自ら考え、自然な形で協働が生まれたり、自分一人で学んだりすることも選択できるようにしています。時間や活動内容によって教師が設定した協働ではなく、生徒の「知りたい」「確かめたい」「意見を聞きたい」といった思いから協働が自然と生まれ、自分の学びに生かそうする、協働自体も学習の方法として生徒が選択し、自分の学びの更新につなげていきます。

こうした主体的な選択や自然な協働を支えるために、授業全体をユニバーサルデザイン化（UD化）することが基盤となります。授業の中に複数の選択肢やヒントが埋め込まれ、生徒が自分の意志で学びを選びやすい環境があることを大切にしていきます。

昨年度までは、3つの指標の選択を中心に探究的な教科の学びを位置づけていましたが、本年度はそれらに加えて「UD化」と「協働」という視点を取り入れ、生徒が自分の学びを更新することを目指してしていきます。

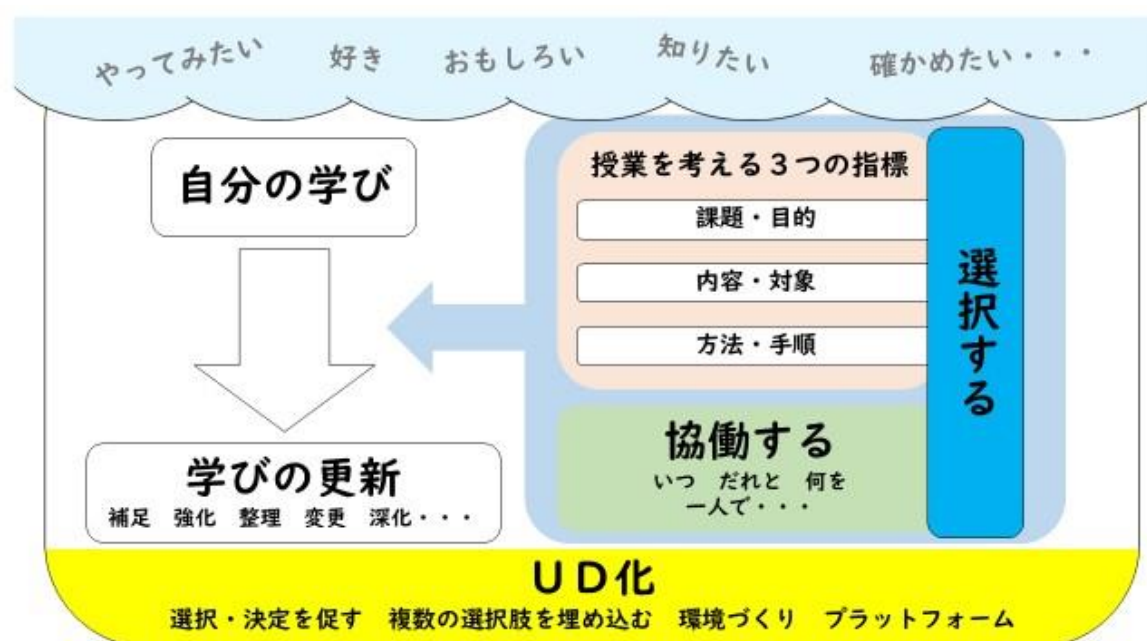


図1. 伊那中学校の学びのモデル

4 探究活動『伊那中マイチャレンジ』を更新する

探究活動『伊那中マイチャレンジ』は、生徒一人ひとりの「やってみたい」という思いを出発点に、自分でテーマを決め、自分で方法を考え、まとめ・発表まで行う活動です。授業を考える3つの指標に当てはめると、すべての要素を生徒自身が選択・決定している活動といえます。これまで、生徒任せになりがちであった探究活動を、より探究的な学びへと発展させるために、昨年度から「ルーム」という異学年編成・希望分野別の集団を編成しました。ルームでは、同じ分野に関心をもつ仲間と相談したり、経験のある上級生から助言をもらったりすることができ、一人では難しかった探究を支え合う環境を整えています。また、1年生の段階では、学級やグループ単位で地域を題材にした総合的な学習に取り組み、探究の基礎を学ぶ機会を設けています。さらに、外部講師を招いてプレゼンテーションの作り方を学ぶ講座を設定するなど、発表に向けたスキルの育成も図っています。教師は生徒の伴走者として、ヒントとなる選択肢を示したり、生徒同士の考えをつないだりしながら、生徒の「選択・決定」と「更新」を支える関わりを意識的に行っています。



写真1 マイチャレ発表の様子

5 各グループの取り組み

職員は「伊那中公開事務局」「協働」「UD」「探究」の4つのグループに別れ、授業実践や探究活動『伊那中マイチャレンジ』の運営を行ってきました。

(1)「伊那中公開事務局」グループ

全職員による実践事例集の作成を行いました。「生徒が選択・決定する場面」を意識した授業づくりを進めることができました。公開当日にお土産資料として配布いたします。

授業実践では、2年生理科「化学変化と物質の質量」の単元で行いました。教師の演示実験から質量の変化を課題・目的に設定し、過去に経験した酸化、沈殿、気体が発生する実験の中から実験を選択して傾向を探り、それをもとに気体の出入りがない実験方法を自分たちで考えながら行っていく授業です。さらに、様々な実験ができるように物品の用意や既習の実験が振り返りやすい掲示などが準備されていました。生徒たちは、それぞれに考えた実験を行い、うまくいかなかった実験について共有する中で、その理由について考察し、次の疑問を見つけていきました。生徒が選択しやすい環境をつくることの重要性を感じる実践となりました。



写真2 準備された実験用具



写真3 気体の出入りがないように実験

(2)「協働」グループ

1時間の授業の中で「個で考える(はじめ)→協働する(なか)→個に帰り、もう一度考える(おわり)」というサイクルを意識した授業を行ってきました。

個で考えを持ち学習が進められるように、ワークシートや資料動画等を多く用意することで、自分のペースでワークシートや資料を選びながら学習に向かうことができるのではないかと考えて実践してきました。協働する場面を設定しようと、道徳の授業ではICTでお互いの考えが見える環境を作ったり、英語の授業ではお互いの英作文をブラッシュアップする場面を設定したりしました。実際の授業の中では、最初からグルーピングされていた環境の中では自分の書いたことを発表しただけで終わってしまった生徒が、個で学ぶ中で「これは本当に合っているのだろうか?」「他の人はどう考えているのだろうか?確かめてみたい…」という気持ちから、自然と仲間の考えを見て比べたり、分からないことを聞くために席を立てて仲間と相談したりする姿が見られました。友の考えを知りたい、聞きたいといった協働する必要感を生徒がもったり、自分の考えを聞いてほしいといった思いに至ったりしたときに協働は自然と生まれるようになるのではないかと考えました。個と協働を切り離して考えるのではなく、一体的に考えた授業づくりをさらに続けていきたいと思っています。



写真4 友達の考えを読む姿



写真5 自然と相談しながら英作文を直す姿

(3)「UD」グループ

国語の授業では、作文の内容(読書感想文と意見文)の選択、資料となる作文、思考ツールと思考ツールの使い方説明動画、デジタルとアナログのどちらでもできる準備など、方法・手順についての選択肢が多く埋め込まれていました。生徒たちは自分にとって必要な資料を探したり、思考ツールを使って考えたりと自分にとってやりやすい方法で作文を考えていきました。

また、UD化の考え方を生徒とも共有し、生徒と職員で一緒にみんなが過ごしやすい環境とはどういうものなのか、伊那中でそろえることと違ってもよいことを考える全校集会を行いました。集会後、各クラスで伊那中スタンダードを考える取り組みが始まっています。自分たちで学びやすい環境を整えていくという意識につながるようにしていきたいと考えています。



写真6 準備された様々な資料

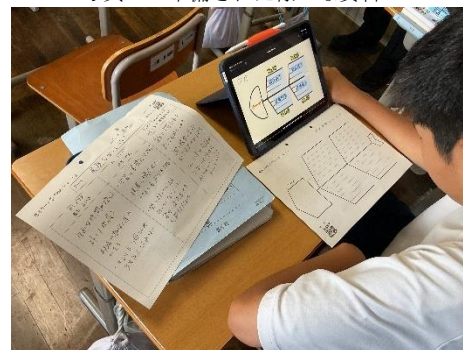


写真7 思考ツールの選択している姿

(4)「探究」グループ

探究活動『伊那中マイチャレンジ』の運営を行ってきました。今年度は、1年生が学年行事「上伊那めぐり」を通してテーマ設定や調べ方、まとめ方を知り、外部講師を招いてプレゼンの仕方を学べるように変更しています。1年生は冬から個別のマイチャレンジに本格的に取り組む形としました。

生徒たちはよりよい発表をしようとスライドの改善に向かう姿が多く見られました。実際に生徒からも「前回のマイチャレよりもスライドのまとめ方がうまくなった」「写真を使って見やすくまとめられた」など自身の成長を振り返る様子が見られました。

一方で、探究の内容としての成長はあまり語られませんでした。探究の内容や探究の仕方にも目が向くような取組をさらに考えていきたいです。また、教師の関わり方がルームごとにばらつきがあることも課題だと捉えています。テーマ決定やルーム内でのグループ構成、アドバイスなどそれぞれの担当にまかせているため、ばらつきが多くあります。教師自身が生徒に対してどのように伴走したらよいのかを考えていきたいです。



写真8 外部講師の方にスライドづくりを教わる

6 公開当日の内容に関わって

(1) マイチャレ発表会 13:40～14:10

各ルームから選出された2名の発表者をランダムに組み合わせ、全校生徒はそこから発表を聞きたい部屋を選択して聞きにいきます。参観される皆様はご自由に参観ください。

	会場	テーマ
1	1年1組	美味しいホットケーキの秘密 シュートを打てるようになる！
2	1年2組	長野県の世界遺産を探そう コレな～んだ？～給食のご飯の中のナゾのあれ！～
3	1年3組	夏を感じる写真集を作ろう！ においがもたらす健康社会
4	1年4組	城について 占い師の闇
5	2年1組	ゲームをやってみた アリには食べ物の好みがあるのか
6	2年2組	アニメーション 世界各国の料理をつくろう！
7	2年3組	乗り物酔いしないためには ゴーヤを克服したい！！～ゴーヤをおいしく食べるには？～
8	2年4組	地球温暖化について ゲーム実況動画を作ろう
9	3年1組	視力は回復するのか？ ハンドスピナー ～押す力の見える化～
10	3年2組	努力を続けられる人になるには？ 錯覚アート
11	3年3組	ブロッキングがうまくなりたい コーヒーかすは肥料になるのか <part 2>
12	第2理科室	「鳥肌が立つ」原理とは？ マジの筋トレ
13	第3理科室	勉強効率が上がる環境 20年前の iPod 復活させてみた ～今でも使えるのか～
14	6組 (特別支援級生徒)	写真を撮る 自作PCを組む

(2) 公開授業 14:25～15:15

公開授業案

教科 **美術科**

授業学級：1年1組
題材名：造形実験で緊張感を考える
授業場面：最終クールの造形実験中
授業者：小山美香子

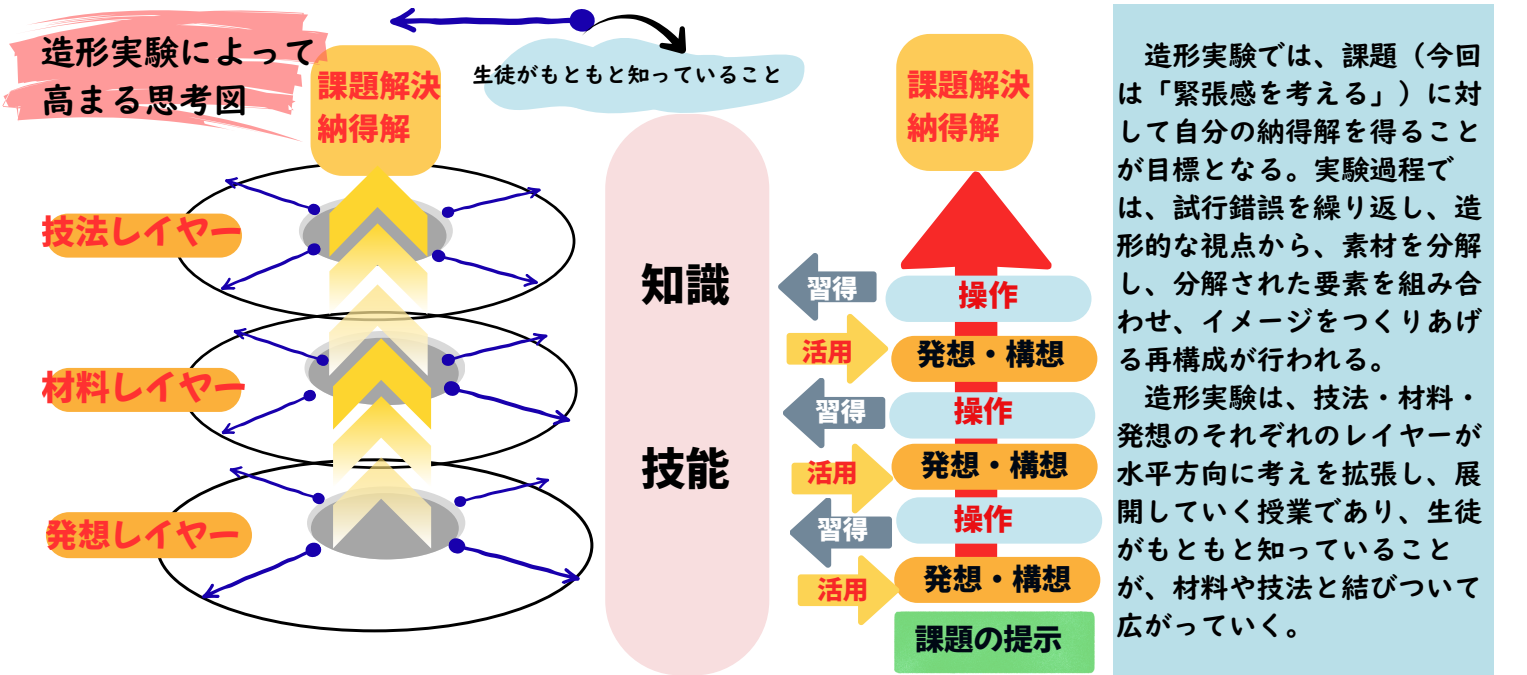
実践した授業のタイプ	
タイプ5	
課題・目的	教師が提示する
内容・対象	生徒が選択する
方法・手順	生徒が選択する

<つきたい力>

緊張感をテーマに造形実験を重ねてきた生徒が、今までの実験によるトライアンドエラーから自分なりの知識を獲得して活用し、自分としての課題解決に向かう力をつけ、**自分としての価値や意味をつくる。**

<本題材の中での探究>

自ら問題解決の方法を考え、扱ったことのない材料を使ったり、新たな技法にチャレンジしたり、手段を工夫したりしてテーマを探究していく学びであり、個々の探究方法と探究の成果は多様で個人に任されている。



生徒の姿から

造形実験①

テーマ

緊張感

取組む日

10月7日～10月14日

自分の緊張感はこの感じ…言葉で表してみよう

発表してる時とかに心臓がバクバクして1番凄かった時（小6の時）はバクバクしすぎて心臓の音がすごい聞こえて不安の気持ちが強かった。

必要材料

- 粘土
- 絵の具
- 何か刺す棒？

こんな手段で

心臓（♡の形）に何かを刺して怖いみたいな感じを表現する。

どうやって表してみようか…？

粘土の心臓を締め付けるようにする

もっとちがうやり方があるかも？

立体であらわしたらどうかな

心臓といえばハート形かな？

イメージそのものが違う？

心臓の動きを表したい

バクバクする感じにしたい

これに何か…

つくってはみたけど違う

10月14日

取組んだこと

粘土をこねてハート形にした&絵の具で塗った

どんな成果があったかな？

結構私がイメージしていたものになってきた。でも、これは私にとっての「緊張感」ではないと気づけたから2回目の時に私の「緊張感」を作りたい。

公開授業案

教科

理 科

授業のタイプ

タイプ5

課題・目的

教師が提示する

内容・対象

生徒が選択する

方法・手順

生徒が選択する

授業学級： 1年 2組

単 元：『探ろう！鏡に映る像の仕組み』（1年「身のまわりの現象 光の世界～光の反射～」）

授業場面：全身を映し出すに必要な鏡の大きさを考える。

授 業 者：渡邊 秀吏

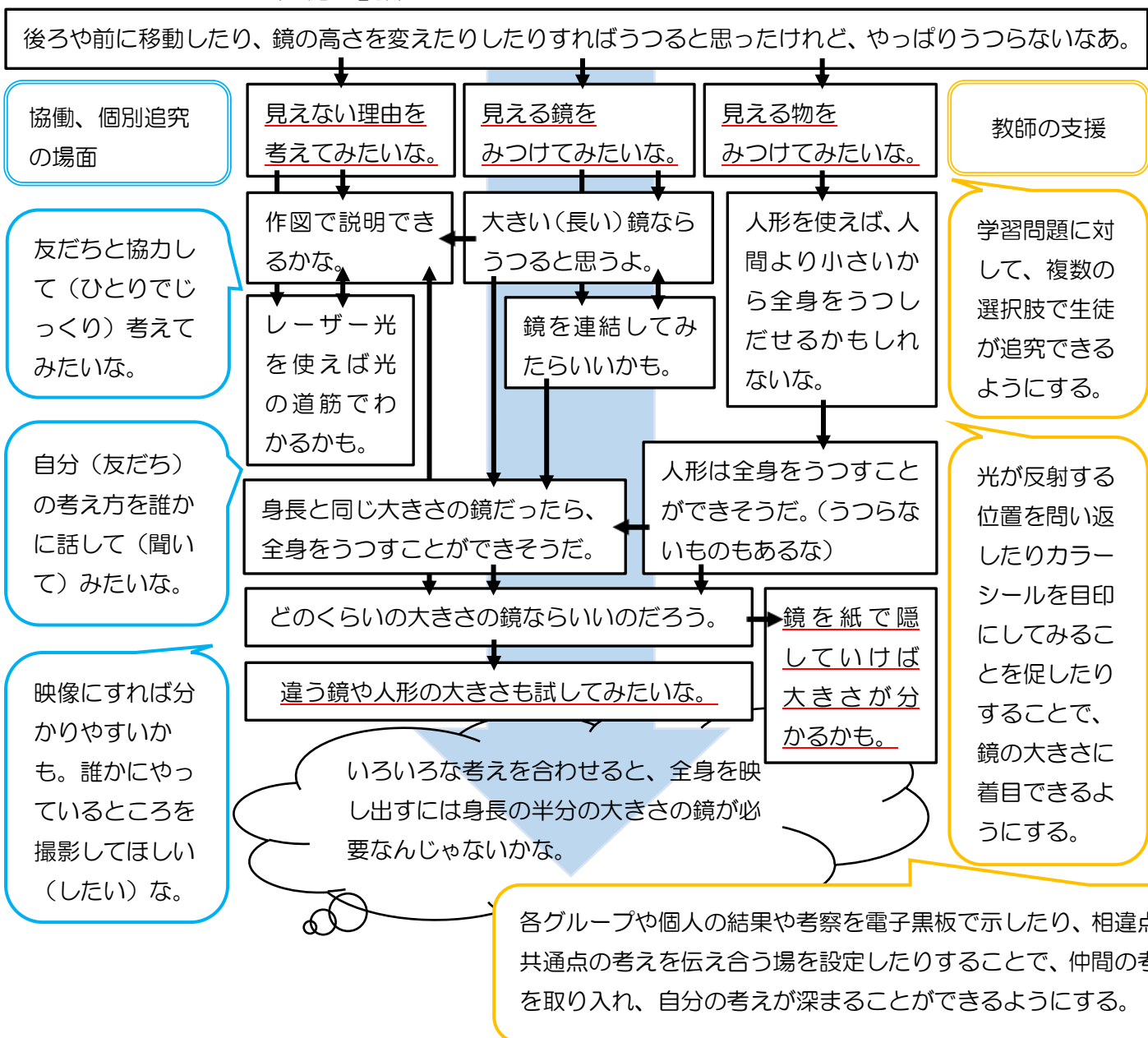
<つきたい力>

全身を映し出す鏡の大きさについて、作図をしたり、うつり方や光の道筋を調べたりして、友と互いの結果を考察し合うことを通して、鏡の像は光の反射の法則によってうつり、全身を映し出すには身長 halves の大きさの鏡が必要であることを見いだそうとすることができる。

<本時の中での協働>

学習問題 なぜ長さ 65 cm の鏡では、自身の全身がうつらないのか。

(生徒の意識)



公開授業案

教科

国語

授業のタイプ	
タイプ5	
課題・目的	教師が提示する
内容・対象	生徒が選択する
方法・手順	生徒が選択する

授業学級：2年1組

単元：モアイは語る—地球の未来

授業場面：筆者の主張や論理の展開に対する自分の意見について、それぞれ観点を決めて内容を整理し、文章にまとめる。

授業者：宮原 里都子

＜つけたい力＞

筆者の主張だけでなく、筆者の論理の展開の仕方や、その効果や説得力の有無について、自分の意見を整理するための方法を選択し、文章にまとめることができる。

＜本時の中でのUD＞ A～D 支援の意図 ← 教師の支援 ← 授業の流れ - - - - 生徒の活動
個々の支援についてはその意図を生徒と共有し、選択や取り組みに役立てることができるようにする。

A 単元（本時）の見通しもつための提示をおこなう

【単元を通した課題】筆者に向けて、自分の意見を述べよう。

【前時】筆者の論理の展開の仕方について吟味する。

【本時】今日の課題 筆者の主張や論理の展開に対する自分の意見を整理する。

【次時】自分の意見を筆者に向けた手紙としてまとめる。

【本時の流れ】

筆者に対して自分の意見を述べるための観点として出てきたものを全体で確認する。

初読の時に感じた印象を元に、自分が筆者に対して意見を述べるための観点を決める。

筆者の主張や論理の展開に対する意見を、思考ツールなどを選択してまとめる。

【生徒がこれまでに使ってきた思考ツール】

- ①マッピング ②フィッシュボーン
- ③PMI チャート ④クラゲチャート

集めた情報を元に、筆者の主張に対する考えを300字～400字にまとめる。

思考ツールやグループなどの学習の方法について自分に合ったものを選ぶことができたか振り返りを書く。

【自分の意見を述べるための観定の例】

- ①論理の展開の仕方
(対比／反証／根拠／説明の順序)
- ②筆者の主張
(納得・共感ができる／できない)
- ③図表の用い方
(必要性／本文との関連性／回数) など

B 話し合える相手を知るため、仲間がどの観点を選んだのかをスクラットや黒板を用いて生徒から見える形でいつでも参照できるようにする。

C より自分に合った学習方法を選択するため、観定の選択を超えた関わり(個人・ペア・グループ)について生徒たちに自分に合った方法を選択するように声かけをする。

D 読みの更新が起こるように、「観定が同じだが違う根拠を用いている生徒同士」「観定は違うが似た根拠に着目している生徒同士」を教師が結びつける。